

拒絶査定

特許出願の番号	平成11年 特許願 第158883号
起案日	平成17年 2月22日
特許庁審査官	江口 能弘 8125 5W00
発明の名称	ミリ波帯通信装置
特許出願人	シャープ株式会社
代理人	深見 久郎 (外 6名)

この出願については、平成16年 4月12日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書並びに手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

[理由Cの請求項1-4について]

意見書では、「引用文献1は、周波数の異なる複数の変調波を一括して送信するマイクロ波送信装置に関するものでありますが、この引用文献1に開示された構成では、マイクロ波多重無線送信装置の複数の入力信号は、すべてベースバンド領域のベースバンド入力信号B B i nであり、本願発明のように、UHF帯の第1の変調信号波と、中間周波数帯の第2の変調信号波とを入力とする、本願発明のミリ波帯通信装置とは根本的に構成が異なるものであります。」と説明している。

変調信号をマイクロ波帯等の高周波信号に周波数変換するのに、ダブルコンバージョン方式を採用することは、例えば特開平9-162767号公報の段落番号【0002】に記載されているように、周知である。

したがって、ベースバンド入力信号B B i n1を変調して合成器2の一方の入力とするか、第1変調信号波を第1局部発振器の周波数により周波数変換して合成器2の一方の入力とするかは、引用文献1（特開平3-254236号公報）の第1図の多重無線送信装置においては、設計的事項に過ぎない。

第1変調信号の周波数帯をどの周波数帯とするかという事項も、適宜決めるべき事項である。

したがって、請求項1-4は依然として、進歩性を有していない。

・ 上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成17年 2月23日 経済産業事務官 平瀬 恵美子